

ご存知ですか？ リボン運動

現在、いろいろなリボン運動が行われています。もともとは本物のリボンをいろいろなところに結びつけて表現していましたが、今ではステッカーやバッジにして使用するケースが多くなりました。みなさんも車等に貼ってあるのを目にしたことがあると思います。たくさん色が、いろいろな意味で使われています。ここでは、人権問題に関わりがある主なものを紹介します。



レッド・リボン

エイズにより亡くなった方への追悼の気持ちと現在苦しんでいる患者のための正しい理解と支援の気持ちを、そして、共に生き応援していく意思を表しています。リボン運動の先駆けともいえる存在で、薬物乱用防止等の意味でも使用されています。



オレンジ・リボン

子どもの虐待防止のための情報をわかちあうシンボルです。
2004年、栃木県で幼い兄弟が虐待の末亡くなった事件をきっかけに取り組まれるようになりました。



ブルー・リボン

「北朝鮮による拉致被害者の生存と救出を信じて」という意思表示で使用されます。ブルーは北朝鮮と日本を隔てる「青い海」とつなぐ「青い空」をイメージして取り組まれるようになったものです。



イエロー・リボン

障がいをもつ人の自立と幸せを願う意味があります。また、自分の愛する人の幸せを願う意味もあります。山田洋次監督の映画「幸せの黄色いハンカチ」でも使われたのはこの「黄色」に由来するものです。



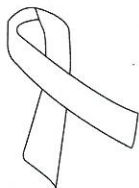
グリーン・リボン

移植医療普及のためのシンボルとして使われるのがポピュラーですが、グリーンのもつイメージから各種環境保護団体をはじめ「狭山事件」の再審要求等のたくさんの運動に使用されています。



パープル・リボン

DVをはじめとする女性へのあらゆる暴力の根絶を目的に使用されています。その他、膀胱がんをはじめとして、多くの疾病の啓発と撲滅を訴えています。



ホホワイト・リボン

開発途上国における妊産婦の命と健康を守る国際的な運動のシンボルとして使われているのがポピュラーですが、男性の非暴力の意味でも使われています。



ピンク・リボン

テレビ等でも取り上げられ有名ですが、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるシンボルマークとして知られています。